

いつも一緒 富山のペットたち

今回は、猫のくしゃみや鼻水、目やになどの症状を起こす、猫風邪についてお話しさせていただきます。



あき ひさ
高橋 明寿

たかはし動物病院長
(富山市豊若町)

猫の風邪

家の外に出て行く猫は、感染の機会が多くなります。室内飼育にすることで感染の確率をぐっと減らすことができます。室内飼育猫の場合、飼い主経由で感染してしまうことがあります。原因物質を手や衣服、靴に付けて家に持ち込むことが考えられます。自宅以外で他の猫と接触したときは、家猫に触れる前にしっかりと手を洗い、服を着替えることが感染を減らす方法になります。

くしゃみや鼻水

猫風邪の原因物質には、ウィ



点鼻薬を投与されている猫。風邪の治療にはインターフェロンや抗生物質を用いる

体調に注意 予防接種を

ルスと細菌があります。代表的なウイルスは猫ヘルペスウイルスと猫カリシウイルスで、猫風邪の大部分を両ウイルスで占めます。

くしゃみや鼻水、鼻づまり、結膜炎を起こし、時間がたつと細菌の二次感染により症状を悪化させてしまいます。結膜炎が進行して角膜潰瘍になり、失明の危険もあります。

猫ヘルペスウイルスは鼻粘膜、口腔粘膜、結膜などで増えて病気を引き起こします。体温が高いと増えにくいウイルスですが、体温調整がまだうまくできない子猫は低体温になることがあり、ウイルスが全身に広がりがちになってしまいうケースもあります。

一方、細菌の代表的なものも、クランミアで、目の分泌物や目やに、涙に、直接・間接に接触することで感染します。症状は目やにを伴う結膜炎です。他に、鼻水、くしゃみ、せきなどを引き起こします。先ほど述べたウイルスに混合感染しているケースが多いようです。

治療は初期に

これらのウイルスや細菌は、病院で結膜やのどの粘膜を綿棒ですり取り、検査センターに送って調べることができます。

猫風邪は、定期的な予防注射を行い、生活環境を整えることで発症を軽減、阻止できます。

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

猫風邪の症状があった場合は、早めに動物病院を受診してください。人と同じで、ひどくなる前の初期のうちに治療しておきましょう。

治療は、インターフェロンや抗生物質、消炎剤などの薬を、飲み薬、点眼・点鼻薬、注射で投与していきます。食欲が落ちてきた猫には点滴をします。症状の程度にもよりますが、治療が遅くなると治癒までに時間がかかり、完治が難しくなることもあります。

これから寒くなると、風邪をひく人が増え、同じタイミングで風邪の症状を出す猫がいます。中には人の風邪がうつったと考える方もいます。でも、猫の風邪と人の風邪は原因菌が異